

日本学術会議  
東日本大震災に係る学術調査検討委員会（第22期・第3回）  
議事要旨

日 時：平成24年8月2日（木） 14：00～16：00

場 所：日本学術会議6階 5-A(2)会議室

出席者：岩澤康裕委員長、山下俊一副委員長、和田章幹事、武市正人委員、  
碓井照子委員、友枝敏雄委員、杉田敦委員、大久保修平委員

参考人：志毛宏次 株式会社未来基盤情報センター取締役

大場利康 国立国会図書館電子情報部電子情報流通課課長

配布資料：

資料1 前回議事要旨（案）

資料2 東日本大震災共有データベース（アーカイブ）について

資料3 東日本大震災アーカイブへの協力について

資料4 委員名簿

議事：

- (1) 前回議事要旨（案）について
- (2) 今後の調査の進め方について
- (3) その他

1) 前回議事要旨（案）について

事務局から、前回議事要旨（案）についての説明が行われた。訂正等があれば、適宜、事務局あてご連絡を頂くこととされた。

2) 東日本大震災共有データベース（アーカイブ）について

○志毛様より資料2について説明があった。

- ・進行度合に関する質問に対し、志毛氏より「現在はアイデアの段階であり、具体化に向けた予算や人材については今後進める」との回答があった。

3) 東日本大震災アーカイブへの協力について

○大場様より資料3について説明があった。

- ・大場氏より、アーカイブ制作の過程で今後予測される課題として、下記の点が挙げられた。

ーメタデータをどこが、誰が担当するのか。学術調査の専門性故に国会図書館側で作ることは難しい。

- －国際的な利活用
- －情報の変化への対応
- －個人情報扱い
- －生データの保管・公開

#### 4) 今後の調査の進め方について

○以下のような議論がかわされた。

- ・前回実施した調査では、学協会からの理解不足、回答数の不足といった課題があったため、今後の調査においては、分野別委員会に協力をお願いして、調査を広範囲に広げたい。そのために、委員を増やし、全ての分野別委員会に連絡できる体制を整えたい。
- ・分野別委員会をお願いするのは妥当だが、各委員会と学協会との繋がり程度の様子は様ではない。各会員・連携会員の学協会への影響力も然り。
- ・会員・連携会員に直接協力をお願いする方法として、学術会議の掲示板に委員長から呼びかける手段もある。その場合の利点は、質問が来たりして議論が広がる可能性があること。
- ・約 1900 の学協会の表層に現れない活動をどのように拾い上げるかも課題である。  
→今後の調査においては、学協会単独での活動のみならず、学協会同士が連携して行っている活動も取り上げたい。その足掛かりとなる情報を分野別委員会から頂けるとありがたい。
- ・学術振興会が賞を出す際に、大学に情報提供を依頼している。しかし、大学の場合は、文科省から直接依頼した方が早いであろう。
- ・アンケートの回答者側に何らかのメリットがあると回答率が高まる。国会図書館のアーカイブへの掲載もメリットの一つになると予測される。メリットを明記した上で、学協会に向け再調査を実施する方法もある。再調査と分野別委員会からの依頼との両方を行ってもよい。
- ・‘「東日本大震災に係る学術調査検討委員会」の活動の方針について（案）」の中に、国会図書館の東日本大震災アーカイブへの情報掲載についても文言を追記する。
- ・未完であってもアーカイブが公開されていると、協力依頼がしやすいが、内閣府では特定の目的でサイトを作ることは難しい。国会図書館ではどうか。
- ・委員会発足から一年近く経過しており、その間に東日本大震災関連の学術調査も広範になっているため、委員の拡充が必要である。現在は 14 名であるが各部から 2 名程度加える方向か。今後要検討。

#### 5) 今後の予定について

- ・次回の委員会にて、12 月または 3 月までの日程を決めたい。
- ・10 月 9 日（火）からの総会前に、次回委員会を開催することとなった。

以上